

# 千刈狸の呟き

医師会や病院のデューティーが半分以下になり、大好きな土いじりをする時間が増えた。土とお話をし、ご機嫌を取っていると何故か気持ちが落ち着く。と言っても別に土に還る日が近いことだけではない。

ルーツは子供時代にある。終戦から間も無い昭和22年に父が会社を定年退職し、大館町に土地を買って家を建てた。土地は300坪弱だったと思う。家を建てたと書いたが、その途中で何等かの事情で、小屋を建てたところで終わり、その小屋に親子5人が住んだ。従ってかなりの土地が残り、畑として使う流れになった。今まで会社員の奥様をしていた母が俄然農婦となり、親類の農家の手伝いもあって、春には馬鈴薯、秋には大根とかなりの量を作っていたようだ。勿論自家用野菜もいろいろ採れた。私は害虫係。丹礬（硫酸銅）と石灰を水に溶いた俄か作りのボルドー液をワラ幕で馬鈴薯の葉に振り掛ける仕事。水は井戸を掘ってポンプからいくらかでも出た。台所の排水は穴を掘って溜め、生ゴミも一緒に入れメタンガスが湧いていた。肥料は化学肥料などない時代、自家排泄物とそのメタン含みのどろどろで済んだ。回虫も順調に循環していた。父が「自由に何でも植えてごらん」と5坪程を呉れた。試験管に土と水を入れリトマス試験紙で検査。にわか土博士！土は黒ボク土と言われる酸度の強いもので、馬鈴薯には最適だったらしい。その5坪を耕し、野菜やら花やらいろいろ楽しんだ。それがルーツ。

時代が飛んで、約30年前に本荘市に土地を買って家を建てた。南北に長い1100余坪の土地。北側に寄せて家を建て南側が広く空いた。ただその頃は入院60床、外来100人に対し1人科長という時もあった程本職が猛烈に忙しく、土を楽しむ余裕など無くしばらくほったらかし、気まぐれに木を植えたりしていた。その失敗例。先ずはキハダ。森林組合で貰ったヒヨロリとした苗を植えたら見る見る径20センチ程の大木になり、家の下に根が入りそうになり慌てて切った。「山の木植えるバカも居ねもんだ」などと言われながら。次がカラ

## ～土いじり～

(骨 狸)

タチの垣根。通学した大館町立城南小学校の垣根がカラタチだった。それが懐かしくて植えたが、鋭いトゲがカミさんにも剪定してくれるシルバーさんにも不評でドウダンツツジに植え換えた。学校では防犯の意味があったのかも知れない。しだれ桜。主幹がすぐに下を向くクセがあるとは知らなかった。副木で主幹を上に向け真っ直ぐに矯正し充分伸ばさなければならぬ。整形外科である。約2メートルで諦め、小振りながらもこれは形良く残っている。土地の南西の角には営林署の嘱託医を辞めた時に記念として頂いた（こだわりの）カラタチ。立派に育ったが、剪定のシルバーさんをトゲでチクチクいじめている。

ある時、新聞広告で「黒ボク土売ります」というのが目に止まり、懐かしさにトラック1台分買った。約5坪分である。いろいろ野菜の栽培が始まった。ここ20年程やっているのがトマトと茄子。根がへそ曲がりのため連作がダメというふたつを交互に植えている。結構採れる。多分、次に述べる肥料が良いのだろう。秋にはそのあとに大根。冬も雪を掘って収穫できる。その肥料とは台所の生ゴミと土を交互に専用のポットに入れ熟成させたもの。ポットには生ゴミ1年分が楽に入る。初めは生ゴミが原型を止め、少し臭くミミズがウジャウジャ居て閉口した。ポットをもう1個追加し、更に1年熟成させてからはミミズのウンコと土だけの無臭のサラサラしたものができた。

3年前に始めたのがベビーリーフ。プランターに葉菜を密植。10センチ位で収穫してサラダで食べる。いろいろやったが小松菜、水菜、サニーレタスに落ち着いた。50センチ×30センチの浅いプランターを4個用意し、収穫しては少量の苦土石灰と化成肥料を足して次を蒔く。昨年は約8サイクル、33回収穫した。生のまま皿に盛ってウサギのように食べる。その間青い野菜はあまり買わない。値段は高くつくが、新鮮、無農薬ということで満足している。

さて、今年は何を植えようか。雪が消えて土やミミズと遊ぶ夢を見ているお正月である。